



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年2月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社イチネンホールディングス
コード番号 9619 URL <https://www.ichinenhd.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 黒田 雅史
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 常務執行役員 総合企画 部長 (氏名) 井本 久子 TEL 06-6309-7890
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家、アナリスト向けWEB会議の開催を予定）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績（2025年4月1日～2025年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年3月期第3四半期	121,303	4.4	8,768	2.9	8,999	2.2	6,104	9.2
2025年3月期第3四半期	116,212	15.5	8,521	30.5	8,805	26.8	5,591	△46.8

（注）包括利益 2026年3月期第3四半期 6,529百万円（15.9％） 2025年3月期第3四半期 5,634百万円（△48.1％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期第3四半期	258.10	—
2025年3月期第3四半期	234.75	233.60

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	％	円 銭
2026年3月期第3四半期	211,711	70,160	32.9	2,938.70
2025年3月期	205,371	65,395	31.5	2,746.38

（参考）自己資本 2026年3月期第3四半期 69,580百万円 2025年3月期 64,683百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	—	33.00	—	37.00	70.00
2026年3月期	—	38.00	—		
2026年3月期（予想）				42.00	80.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2026年2月9日）公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2025年3月期期末配当金の内訳 普通配当 33円00銭 記念配当 4円00銭

3. 2026年3月期の連結業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
通期	162,000	4.6	10,400	1.2	10,030	△2.8	6,200	△6.9	263.24

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(注) 連結範囲の重要な変更には該当しませんが、連結子会社である野村オートリース株式会社は、連結子会社である株式会社イチネンを存続会社とする吸収合併により消滅したため、当第3四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| ④ 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	23,762,227株	2025年3月期	24,262,227株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	84,919株	2025年3月期	709,806株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	23,649,663株	2025年3月期3Q	23,819,143株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間（2025年4月1日～2025年12月31日）におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復基調で推移いたしましたが、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクに加え、継続的な物価上昇が個人消費に及ぼす影響、金融資本市場の変動など依然として先行き不透明な状態が続いております。

このような状況の下、当社グループは「いちねんで、いちばんの毎日を。」をスローガンに掲げ、最高の品質とサービスでより多くのお客様に満足をご提供し、適正な利潤の確保によりステークホルダーに報い、社会に貢献できる企業を目指しております。

基盤事業である自動車リース関連事業を中心に、ケミカル事業、パーキング事業、機械工具販売事業、合成樹脂事業、農業関連事業を展開しており、これら既存事業の強化を進めながら、事業領域の枠にとらわれない新規事業への参入、規模拡大を目的とした積極的なM&A、海外展開にも挑戦しております。

当第3四半期連結累計期間の連結売上高は1,213億3百万円（対前年同期比4.4%増）、営業利益は87億68百万円（対前年同期比2.9%増）、経常利益は89億99百万円（対前年同期比2.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は61億4百万円（対前年同期比9.2%増）となりました。

各セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

また、下記のセグメント別売上高は、内部売上高消去前の金額であります。

<自動車リース関連事業>

リースにおきましては、リース契約車両は依然として小型化傾向にありますが、国内のリース車保有台数は堅調な伸びを維持しており、市場は緩やかながら拡大傾向にあります。当社グループは、地域密着のきめ細やかなサービスで競合他社との差別化を図りながら、比較的競合の少ない地方市場及び中小口規模の企業をメインターゲットとして新規販売を積極的に行うとともに、既存顧客との更なる取引深耕に努めました。

これらの結果、2025年12月末現在リース契約台数は97,582台（対前期末比1,465台増）となり、リース契約高は345億円（対前年同期比0.8%減）、リース未経過契約残高は1,017億66百万円（対前期末比3.4%増）となりました。

自動車メンテナンス受託におきましては、当社グループ独自の自動車整備工場ネットワークによる高品質なメンテナンスサービスを強みとしながら、更なる契約台数、契約残高の増加に努めた結果、メンテナンス受託契約台数は80,062台（対前期末比4,075台増）となり、メンテナンス受託契約高は50億88百万円（対前年同期比0.3%増）、メンテナンス未経過契約残高は102億92百万円（対前期末比15.9%増）となりました。

燃料販売におきましては、主に自動車用燃料給油カードにおいて、低燃費車の普及により需要が減少傾向にありますが、既存顧客へのサービス向上並びに新規顧客の獲得に注力いたしました。

販売面では、リースは契約台数が順調に推移いたしました。

損益面では、主力である自動車リースの販売が増加したことに加え、燃料給油カードの販売単価が上昇しましたが、営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により、利益は前年同期並みの水準で推移いたしました。

この結果、売上高は485億54百万円（対前年同期比5.4%増）、セグメント利益は51億47百万円（対前年同期比0.3%増）となりました。

<ケミカル事業>

ケミカル事業におきましては、住みよい地球環境と人々の暮らしの向上に貢献するべく、製品開発力の強化及び品質向上に取り組むとともに、付加価値の高い製品の販売に注力いたしました。

販売面では、化学品関連の自動車整備工場向けケミカル製品、工業薬品関連の燃料添加剤及び船舶用燃料添加剤の販売は順調に推移いたしました。一方、一般消費者向けケミカル製品の販売は減少いたしました。

損益面では、原材料価格等の上昇を踏まえた機動的な価格改定等の収益改善策により、利益が増加いたしました。

この結果、売上高は89億94百万円（対前年同期比0.1%減）、セグメント利益は8億70百万円（対前年同期比22.6%増）となりました。

<パーキング事業>

パーキング事業におきましては、安全・安心・清潔で利用しやすい駐車場をお客様にご提供するべく、「One Park」のブランド名でコインパーキングや来客用駐車場を全国に展開しているほか、病院や官公庁及び商業施設

設に附帯する駐車場の運営管理も行っております。中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大に努めた結果、2025年12月末現在駐車場管理件数は1,990件（対前期末比58件増）、管理台数は37,560台（対前期末比635台増）となりました。

販売面では、新規駐車場の開発が順調に進み、また、既存駐車場の継続的な収益改善活動の効果もあり、販売が増加いたしました。

損益面では、販売増加の影響により利益が増加いたしました。

この結果、売上高は61億17百万円（対前年同期比3.0%増）、セグメント利益は10億83百万円（対前年同期比11.7%増）となりました。

<機械工具販売事業>

機械工具販売事業におきましては、プロ向けや個人向けの各種工具類、自動車部品、産業・建設機械部品など幅広い商材を取り扱っており、自社でインターネット通販も展開しております。更なる事業規模の拡大並びに収益性の向上を実現させるため、取扱アイテムの拡充、自社オリジナル製品の開発・販売の強化、商品調達コスト及び物流コストの低減に努めました。

販売面では、自動車部品及び産業資材、空調工具及び計測工具並びに産業機械部品の販売は順調に推移いたしました。一方、DIY用品等の販売は減少いたしました。

損益面では、上記要因における販売増加の影響により利益が増加いたしました。

この結果、売上高は285億68百万円（対前年同期比5.1%増）、セグメント利益は3億8百万円（前年同期は7百万円のセグメント損失）となりました。

<合成樹脂事業>

合成樹脂事業におきましては、遊技機部品の製造・販売を行う主力の遊技機部品事業や、自動車用内外装部品の製造・販売事業を中心に、新規案件の受注拡大及び新商品の開発を図り、同時に品質改善にも努めてまいりました。

販売面では、半導体実装装置メーカー等へのセラミックヒーターの販売は順調に推移いたしました。一方、遊技機メーカーへの合成樹脂製品の販売は、前年同期に大口の受注を獲得した反動により、大幅に減少いたしました。また、マルイ工業株式会社の海外子会社2社の業績が、決算期変更に伴い前年第1四半期には連結されていなかった影響により、当第3四半期連結累計期間における販売の増加要因となりました。

損益面では、上記要因における販売減少の影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は139億68百万円（対前年同期比2.9%減）、セグメント利益は62百万円（対前年同期比90.5%減）となりました。

<農業関連事業>

農業関連事業におきましては、主力である肥料の製造・販売事業を中心に、生産技術の改善・効率化や、肥料製品の安定供給に取り組んでまいりました。

また、自社農場での農作物生産については、栽培ノウハウの蓄積を進めるとともに、新しい販路の開拓及び6次産業化に向けた検討・研究等、収益化に向けた取り組みを行ってまいりました。

販売面では、肥料製品の販売は順調に推移いたしました。また、農作物の販売数量が増加いたしました。販売単価は下落いたしました。

損益面では、上記要因における販売増加の影響に加え、肥料の販売単価が上昇した影響により利益が増加いたしました。

この結果、売上高は141億31百万円（対前年同期比11.1%増）、セグメント利益は11億17百万円（対前年同期比44.7%増）となりました。

<その他>

その他事業のガラス加工事業におきましては、新規顧客の拡大や新たな市場開拓を図るとともに、品質向上に取り組んでまいりました。

販売面では、ガラス製品の販売が減少いたしました。前連結会計年度に新たに連結子会社となった日石硝子工業株式会社が販売増加に寄与いたしました。

損益面では、上記要因における販売減少の影響に加え、営業活動の増加等に伴い販売費及び一般管理費が増加した影響により利益が減少いたしました。

この結果、売上高は18億60百万円（対前年同期比11.3%増）、セグメント利益は1億61百万円（対前年同期比39.7%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

＜資産、負債及び純資産の状況＞

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は2,117億11百万円となり、前連結会計年度末残高2,053億71百万円と比べて63億39百万円増加いたしました。これは現金及び預金の増加等によるものであります。

負債合計は1,415億50百万円となり、前連結会計年度末残高1,399億75百万円と比べて15億74百万円増加いたしました。これは有利子負債の増加等によるものであります。

純資産合計は701億60百万円となり、前連結会計年度末残高653億95百万円と比べて47億64百万円増加いたしました。これは利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績につきましては、現時点では、2025年11月4日に公表いたしました業績予想に変更はございません。

なお、引き続き今後の業績動向を踏まえ精査しており、修正の必要が生じた場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,162	14,566
受取手形及び売掛金	20,849	19,543
電子記録債権	2,599	2,815
リース・メンテナンス未収入金	2,718	2,848
リース債権及びリース投資資産	31,229	32,318
商品及び製品	14,920	16,320
仕掛品	1,444	1,273
原材料及び貯蔵品	5,764	6,491
前払費用	2,521	3,180
その他	5,714	2,485
貸倒引当金	△9	△10
流動資産合計	96,914	101,833
固定資産		
有形固定資産		
賃貸資産	153,502	156,944
減価償却累計額	△91,252	△94,112
賃貸資産（純額）	62,250	62,831
土地	17,821	17,825
その他	50,633	51,640
減価償却累計額	△34,576	△35,251
その他（純額）	16,057	16,389
有形固定資産合計	96,129	97,045
無形固定資産		
のれん	217	54
その他	892	912
無形固定資産合計	1,110	966
投資その他の資産		
投資有価証券	6,055	6,970
長期前払費用	1,609	1,777
繰延税金資産	1,255	915
その他	2,302	2,218
貸倒引当金	△85	△112
投資その他の資産合計	11,137	11,769
固定資産合計	108,376	109,781
繰延資産	79	95
資産合計	205,371	211,711

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	15,015	14,044
電子記録債務	4,870	5,009
短期借入金	4,400	4,500
コマーシャル・ペーパー	3,000	1,000
1年内償還予定の社債	200	15,200
1年内返済予定の長期借入金	22,682	19,870
リース債務	42	42
未払法人税等	1,609	1,515
リース・メンテナンス前受金	523	602
賞与引当金	1,135	565
品質保証引当金	16	15
その他	4,012	4,131
流動負債合計	57,506	66,496
固定負債		
社債	25,800	18,700
長期借入金	52,591	52,272
リース債務	91	74
退職給付に係る負債	2,055	2,097
役員退職慰労引当金	175	180
資産除去債務	681	689
その他	1,072	1,039
固定負債合計	82,468	75,053
負債合計	139,975	141,550
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,529	2,529
資本剰余金	1,805	1,805
利益剰余金	59,054	62,578
自己株式	△1,077	△128
株主資本合計	62,311	66,784
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,801	2,255
繰延ヘッジ損益	△6	5
為替換算調整勘定	385	425
退職給付に係る調整累計額	191	109
その他の包括利益累計額合計	2,371	2,796
新株予約権	132	—
非支配株主持分	579	580
純資産合計	65,395	70,160
負債純資産合計	205,371	211,711

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	116,212	121,303
売上原価	90,489	94,488
売上総利益	25,722	26,814
販売費及び一般管理費		
役員報酬	1,021	990
給料手当及び賞与	6,659	6,908
賞与引当金繰入額	422	387
退職給付費用	207	251
役員退職慰労引当金繰入額	22	23
貸倒引当金繰入額	12	28
品質保証引当金繰入額	△1	△1
のれん償却額	180	163
その他	8,676	9,294
販売費及び一般管理費合計	17,200	18,046
営業利益	8,521	8,768
営業外収益		
受取配当金	139	144
仕入割引	36	33
為替差益	9	21
助成金収入	32	74
その他	376	287
営業外収益合計	594	560
営業外費用		
支払利息	198	186
支払手数料	39	57
持分法による投資損失	16	37
その他	56	47
営業外費用合計	311	329
経常利益	8,805	8,999
特別利益		
固定資産売却益	3	3
投資有価証券売却益	118	555
会員権売却益	2	—
新株予約権戻入益	—	4
特別利益合計	124	563
特別損失		
固定資産除売却損	125	175
投資有価証券売却損	15	—
投資有価証券評価損	140	—
事業整理損	6	—
損害賠償金	56	—
特別損失合計	342	175
税金等調整前四半期純利益	8,586	9,387
法人税、住民税及び事業税	2,554	3,111
法人税等調整額	441	169
法人税等合計	2,995	3,280
四半期純利益	5,591	6,106
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,591	6,104

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	5,591	6,106
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△241	454
繰延ヘッジ損益	6	11
為替換算調整勘定	296	38
退職給付に係る調整額	△19	△81
その他の包括利益合計	42	423
四半期包括利益	5,634	6,529
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,613	6,528
非支配株主に係る四半期包括利益	20	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	農業関連 事業	計				
売上高											
外部顧客へ の売上高	45,925	8,481	5,940	27,092	14,381	12,719	114,540	1,671	116,212	—	116,212
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	160	518	—	91	7	1	780	0	780	△780	—
計	46,086	9,000	5,940	27,183	14,388	12,721	115,320	1,672	116,993	△780	116,212
セグメント利 益又は損失 (△)	5,131	710	970	△7	666	771	8,243	268	8,511	10	8,521

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント							その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注3)
	自動車 リース関連 事業	ケミカル 事業	パーキング 事業	機械工具 販売事業	合成樹脂 事業	農業関連 事業	計				
売上高											
外部顧客へ の売上高	48,380	8,458	6,117	28,401	13,954	14,131	119,443	1,860	121,303	—	121,303
セグメント 間の内部売 上高又は振 替高	174	536	—	167	13	0	891	0	891	△891	—
計	48,554	8,994	6,117	28,568	13,968	14,131	120,334	1,860	122,195	△891	121,303
セグメント利 益	5,147	870	1,083	308	62	1,117	8,590	161	8,752	15	8,768

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ガラス加工製品の製造販売、不動産の賃貸及び管理等であります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期連結累計期間においてストック・オプションの権利行使による自己株式125,000株の処分を実施いたしました。また、2025年6月9日開催の取締役会決議に基づき、2025年6月23日付で自己株式500,000株の消却を実施いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が809百万円、自己株式が948百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が62,578百万円、自己株式が128百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	13,888百万円	14,232百万円
のれんの償却額	180	163